

平成24年度
食育に関する緊急調査研究会報告書

大規模災害と学校給食



ま え が き

公益財団法人福島県学校給食会
会 長 丹 治 光 雄

平成23年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生、東北地方の太平洋沿岸は大津波に襲われ、福島県では1,600人を超す人々が犠牲となり、いまなお行方がわからない人もいます。

また、同時に東京電力(株)福島第一原子力発電所から大量の放射能が漏れ、県土が広範囲に汚染されたことにより、今なお、県外避難5万7千人を含む約15万4千人の住民が避難を余儀なくされています。

未曾有の大災害により、学校給食も大きな被害と影響を受けました。

物流障害により困難となった食材の確保、調理場施設被害による調理不能、住民、学校、役場機能の他自治体への移転・避難、放射性物質による汚染の心配のない食材の確保、食材等の放射性物質検査、放射能に関する情報の収集、保護者への説明と理解…と、これまで経験したことのない様々な問題に直面しました。

こうした問題に、真摯に取り組み、学校給食の回復、安全で安心できる食材の確保に奮闘した調理場所長、栄養教諭・学校栄養職員等の学校給食関係者の努力、そして全国からの暖かい励ましやご支援によって、福島県の学校給食は、着実に復旧してきております。

本報告書は、本会が設置している「食育に関する調査研究会」が、福島県の学校給食現場が直面し、経験した様々な状況とその際の対応状況や課題を記憶のあるうちにとりまとめ、大規模災害に対する学校給食の危機管理や防災対策を検討する上での参考になればと企画したものであります。

研究会のメンバーは、学校給食現場の教諭・栄養教諭・学校栄養職員の方々です。講師、指導助言者のご指導のもと1年間という短い期間の中で9回の会合を重ね、精力的に調査研究に当たっていただきました。

原発事故はいまだ収束せず心配な状況が続いておりますが、震災から3年目を迎え、人々の記憶や意識が風化していくことが懸念されます。

「居安思危、思則有備、有備無患」(安きに居りて危うきを思う、思えば則ち備えあり、備えあれば患い無し)

「安き」ときが早く訪れることを祈りつつ、この報告書が、「安きにありて危うきを思い備える」ための役に立てば、幸いです。

平成25年3月

目次

◇ ま え が き

I 研究の趣旨	1
II 研究の内容	1
III 研究の対象	1
IV 研究の方法	1
V 研究の全体構想と調査項目	2
VI 研究の結果	
第1章 学校給食の実施に関する調査集計結果（H23.4.12 現在）	
1 基礎資料	4
2 県内小中学校の学校給食の実施状況	4
3 学校給食「開始予定あり」の調理場の状況	5
4 学校給食「開始未定」の調理場の状況	5
5 子どもの昼食状況	6
第2章 学校給食が直面した様々な問題の状況と対応・課題	
1 被害状況	8
(1) 給食施設等の被害状況	8
(2) ライフラインの被害状況	10
2 学校給食開始までの主な対応状況	12
(1) 給食開始までの子どもの昼食	12
(2) 給食開始へ向けての主な活動	12
3 学校給食開始からの状況	16
(1) 給食開始日	16
(2) 給食開始時の給食の内容	16
(3) 給食開始時の主な課題・内容	17
(4) 現在の状況	19
4 放射能災害への主な対応と課題	20
(1) 主な対応	20
(2) 主な課題	27
○ 参考資料	30

第3章 公益財団法人福島県学校給食会の取組み

1 東日本大震災発生後7日間の対応	34
2 空間線量の把握と取扱食品の放射性物質検査	34
3 安全安心な米の安定的な確保	35
4 放射能災害に関する研修機会の提供と調査研究	36
5 他県等からの支援・その他	36

第4章 学校給食への参考資料紹介

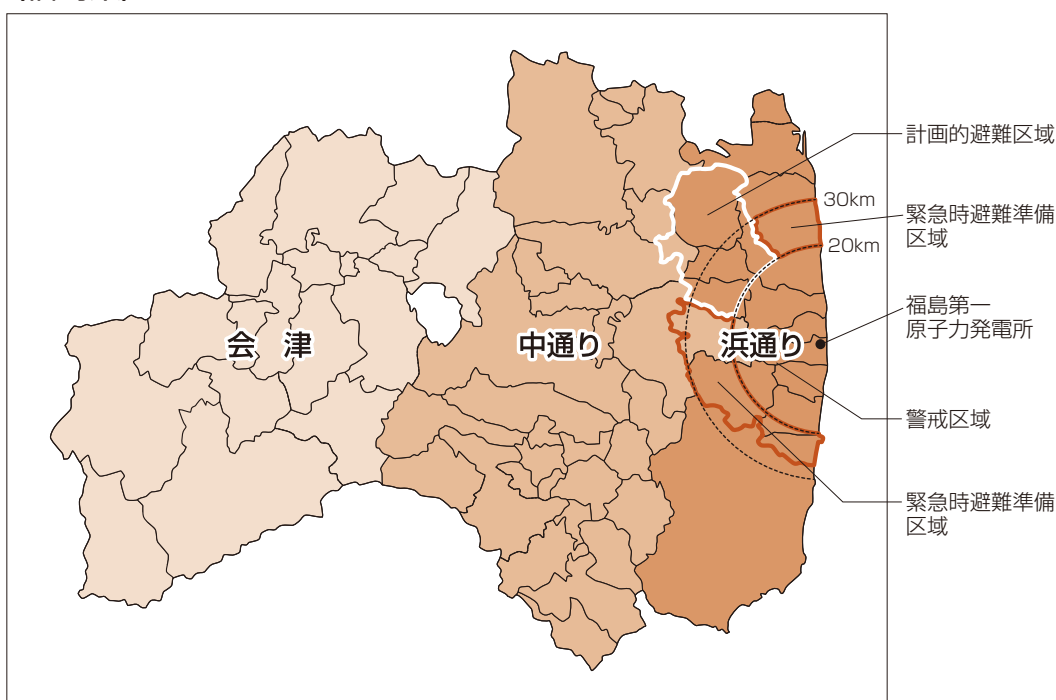
1 放射能災害に対する主な対応	38
(1) 内部被曝を避ける学校給食食材	38
2 災害時の主な対応	44
(1) 災害時における学校給食食品	44
(2) 災害時における学校給食必要物品等	44

Ⅶ 研究のまとめ

◇ 食育に関する緊急調査研究会設置要項	46
◇ 調査協力小・中学校及び学校給食共同調理場（学校給食センター）	47
◇ 食育に関する緊急調査研究会委員等名	48

◇ あとがき

〈福島県〉



H23.4 警戒区域、緊急時避難準備区域、計画的避難区域の設定（原子力災害対策本部）